

山梨県韋崎市

Shimoyokoya Site  
**下横屋遺跡 IV**

藤井町南下条字水無421番地地点  
宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書

2003

韋崎市遺跡調査会

## 序 文

蘿崎市内には現在200遺跡を越す埋蔵文化財包蔵地が確認されています。下横屋遺跡もその一つであります。本遺跡の所在する通称「藤井平」は穀倉地帯であると共に、塩川との戦いの場でもありました。このたびの調査により、当地が弥生時代から平安時代において、生活の場として使われていたことが確認されました。

当地域の歴史の紐解きに本書がお役に立つことを願い、今回の調査に甚大なるご理解とご協力をいただきました地元の皆様方へこの場を借りてお礼を申し上げる次第であります。

蘿崎市遺跡調査会  
事務局長 舞 石 薫

## 例

- 本書は、山梨県韮崎市藤井町南下条字水無421番地1号外に所在する下横屋遺跡の宅地分譲地内の道路敷設に伴う発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、平成15年8月1日から13日まで実施し、その後発掘調査報告書の作成を引き続き行い、事業完了は10月24日である。事業は双葉ハウジングと委託契約を締結した韮崎市遺跡調査会が実施した。

## 調査組織

### 1 調査主体 韮崎市遺跡調査会

事務局長 興石 薫  
課長 新藤 稔  
室長 横森 竹千代  
リーダー 山下孝司（学術文化財係）

### 凡

- 遺構・遺物の縮尺は各図に示したとおりである。
- 遺物実測図番号、観察表番号及び本文中の番号は一致する。
- 遺構の方位は各図に示したとおりであり、北は磁北

### 目

序文	
例言	
調査組織	
凡例	
目次	
第1章 調査経過	2
第2章 遺跡の環境	2

閑間俊明（ ）

2 調査担当 閑間俊明  
3 調査参加者 阿部純一・阿部由美子・石原ひろみ・上野誠司・上野理江・小野初美・土屋啓子・中島聰・橋本大介・深沢真知子

### 例

によるものである。

- 公共座標の計算等は株式会社シン技術コンサルに委託して実施した。なお、座標は旧座標を用いている。

### 次

第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 遺構と遺物	5
第1節 遺構	
第2節 遺物	
まとめ	9
写真図版	

## 第1章 調査経過

韮崎市藤井町北下条字水無421番地1号外について平成15年7月1日に株式会社双葉ハウジングから文化財保護法第57条の2に関する書類が韮崎市教育委員会に提出された。開発予定地内の1425.03m<sup>2</sup>が埋蔵文化財包蔵地であることから、開発業者並びに地権者との協議により、開発予定地内に新規に建設する道部分については本調査

を実施し、その他の部分については盛土保存とする協定書を取り交わした。

本調査は双葉ハウジング株式会社と業務委託契約を締結した韮崎市遺跡調査会が、同年8月1日に開始し、同月13日に終了した。その後、整理作業を開始し報告書を刊行し、事業を終了したのは10月24日である。

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

遺跡の所在する藤井平は塙川と七里岩台地に挟まれた低位の河岸段丘である。下横屋遺跡は、この藤井平の中央部よりやや南側に広がり、概ね現在の蔵之前集落から第2節 歴史的環境

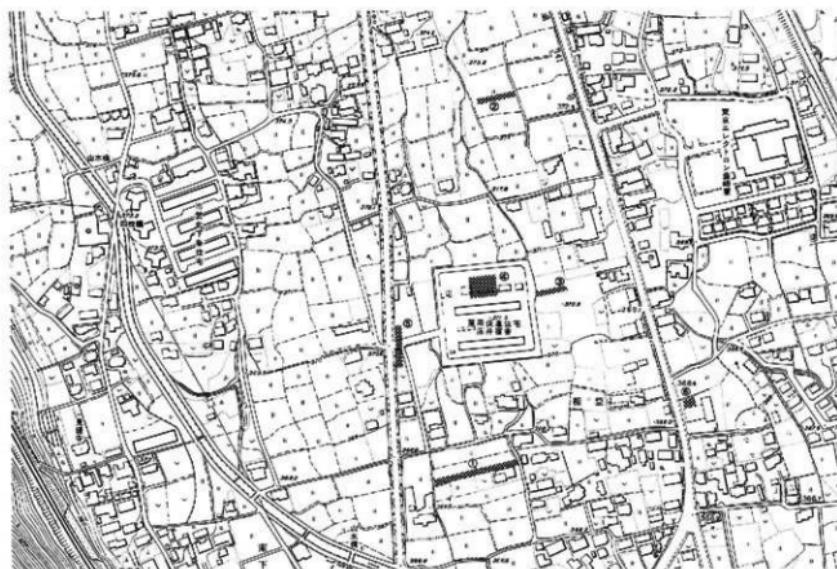
下横屋遺跡は今回を含めて合計4回の調査が実施され、その他に近接する遺跡としては枇杷塚遺跡⑥、上横屋遺

相岱集落の間に相当する。南北に走る主要用水路の東側にあり、もともと中州状であったことを窺い知ることができる。

跡⑧、後田第2遺跡⑨や後田堂ノ前遺跡⑩などの調査がされており、各時代の藤井平での生活の一端を垣間みる

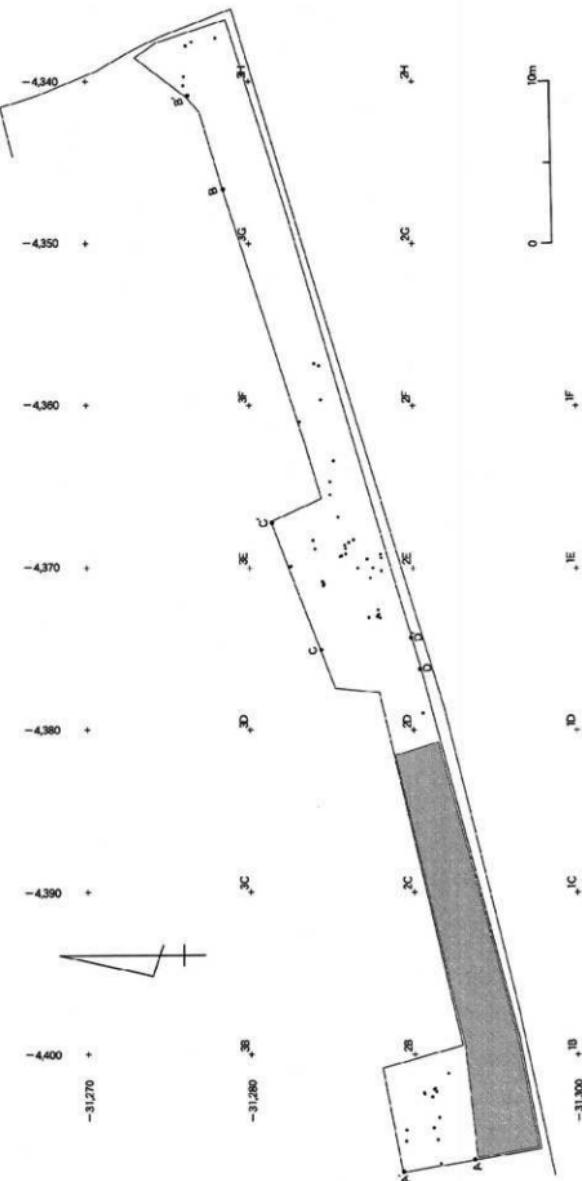


第1図 下横屋第4遺跡と周辺の調査遺跡① (1/50,000)



第2図 下横屋第4遺跡と周辺の調査遺跡② (1/5,000)

第3図 調査区全体図 (1/300)



ことができる。

縄文時代では現在の葦崎北東小学校を中心に所在する宮ノ前遺跡<sup>⑨</sup>で前期終末の十三普提式が出上しており、すでにこの頃に藤井平は塙川よりもやや高い段丘面を形成していたと考えられる。つづく中期前半では確認された遺跡数は、七里岩台地上よりも少なく、環状集落跡などは現在のところ把握されていない。中期後半に入るとなじみと共に遺跡の規模もやや拡大する傾向がある。北後田遺跡や後田遺跡<sup>⑩</sup>では曾利式後半段階の配石遺構を伴う集落跡が確認されている。

縄文時代晚期から弥生時代前半にかけては遺構の確認はされていないが、遺物が大量に出土しており、藤井平に弥生文化の一翼を担う稻作の定着が始まったことを予想させる。

弥生時代終末から古墳時代前半にかけては、七里岩台地上の坂井南遺跡<sup>⑪</sup>をはじめとして遺跡数は増加する。ただし、藤井平ではこれまで方形周溝墓を確認しておらず、台地上との墓域のあり方に相違を見せていている。また、集落としても坂井南遺跡のような状況のものは現在のところ例がない。

古代に入ると藤井平では、宮ノ前遺跡群をはじめとし

て大規模な集落が営まれるようになる。出土した円面硯や三彩陶器などは本来官衙的な性格を持つ遺跡から出土する傾向があり、宮ノ前遺跡群が郷里および郷レベルで中心的な集落であったことが想定される。

中世遺構の調査例は現在のところ皆無である。しかし、駒井氏館跡などを始めとして土塁層が居住していたことを示す遺構や史資料は所在する。

江戸時代に入り南下条について『甲斐国志』には次のように記録されている。

南下条村 相堂 一ヶ屋 戸 七十二

口 三百四十五 男百七十五

女一七〇 馬十五

葦崎宿北八町二在り此辺藤井保ト云兼ハ北山筋宮窟村へ一里  
許リ塙河ニ橋ヲ架シ云下条橋西ノ方八片山ヲ打越シ一ヶ屋ト云  
枝村ハ官道ニ係リ葦崎宿ト西岩下村ノ間ニ在リ民戸九、西岩  
下村ノ民戸六七、武河筋鍋口村ノ民戸三、各々雜居セリ

このことから北下条村よりはやや小さな集落であったこ  
とが分かり、これ以降に徐々に集落が広がり現在の状  
況となったことを推定できる。

### 第3章 遺構と遺物

#### 第1節 縄文時代の遺物（第7図）

調査区中央部から縄文時代晚期の水式が2点出土している。3は砲弾形深鉢の口縁部である。7は精製浅鉢形土器の口縁部直下から脇部にかけてあり、丁寧に磨かれてている。

藤井平では当該期の遺跡は数多い。中道遺跡では出土した土器片に植物種子圧痕が見られ、レプリカ方による分析により大麦の圧痕であることが確認された。このことは、当該期にはすでに大麦が栽培されていたことを示

し、畠作があった可能性を示すものといえる（中沢道彦他2002「山梨県葦崎市中道遺跡出土の大麦圧痕土器について」『古代』第111号）。

当遺跡において当該期の資料が出土したことは、藤井平における晚期の縄文人の生活領域が広域であったことを示すものであり、藤井平という土地をどのような戦略をもって活用してきたのかを考察していく上で貴重な出土といえる。

#### 第2節 弥生時代の遺物（第7図）

調査区中央から弥生時代後期の土器が2点出土している。1・2ともに妻の肩部にあたり櫛目状工具による横位波状文が施文される。

当調査地点から北に約250mの調査地点では弥生時代後半の竪穴住居跡が確認されており（第2図④）、当調査地点もその集落の領域内にあることは疑う余地はあるま

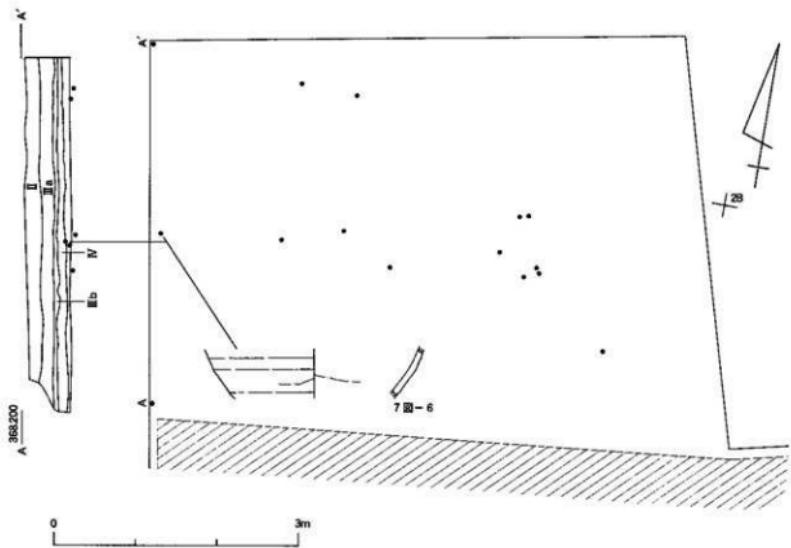
い。今回の調査では竪穴住居跡は確認されていないが、出土した土器は摩滅しておらず、氾濫時に流出したものとは考えにくく、竪穴住居周辺での広い意味での廃棄行為の結果と捉えることができ、調査区周辺に居住域の存在を示すものといえる。

#### 第3節 古墳時代の遺物（第7図）

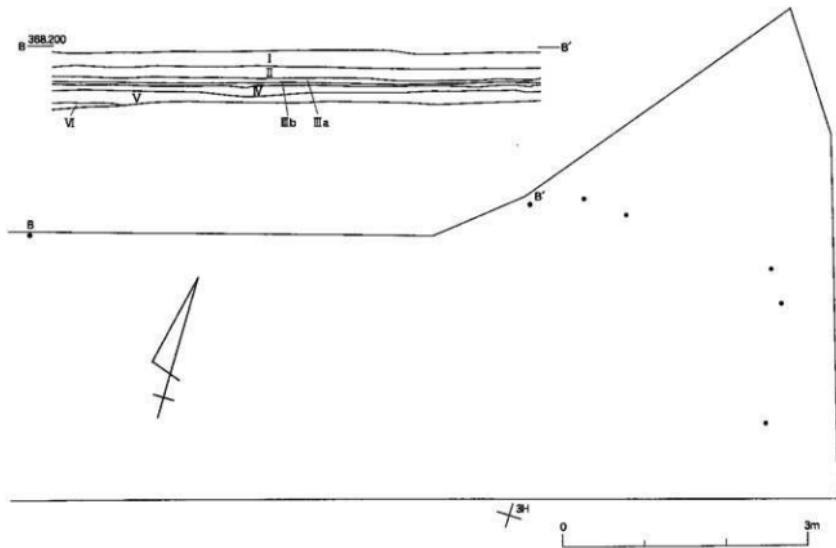
調査区全体から出土している。図示したのは3～5である。3はヘラ削り調整の長胸妻の体部である。4はハケ調整の台付妻の肩部である。5は高杯または杯と考えられる。体部はヘラ削りを施し、内面には縱方向のミガキ状の丁寧なナデが見られる。3・5は古墳時代後期のものと考えられ、当調査地点から800m北に所在する上

横屋遺跡（第1図⑧）や後田第2遺跡（同図⑨）との関連性を想定できる。

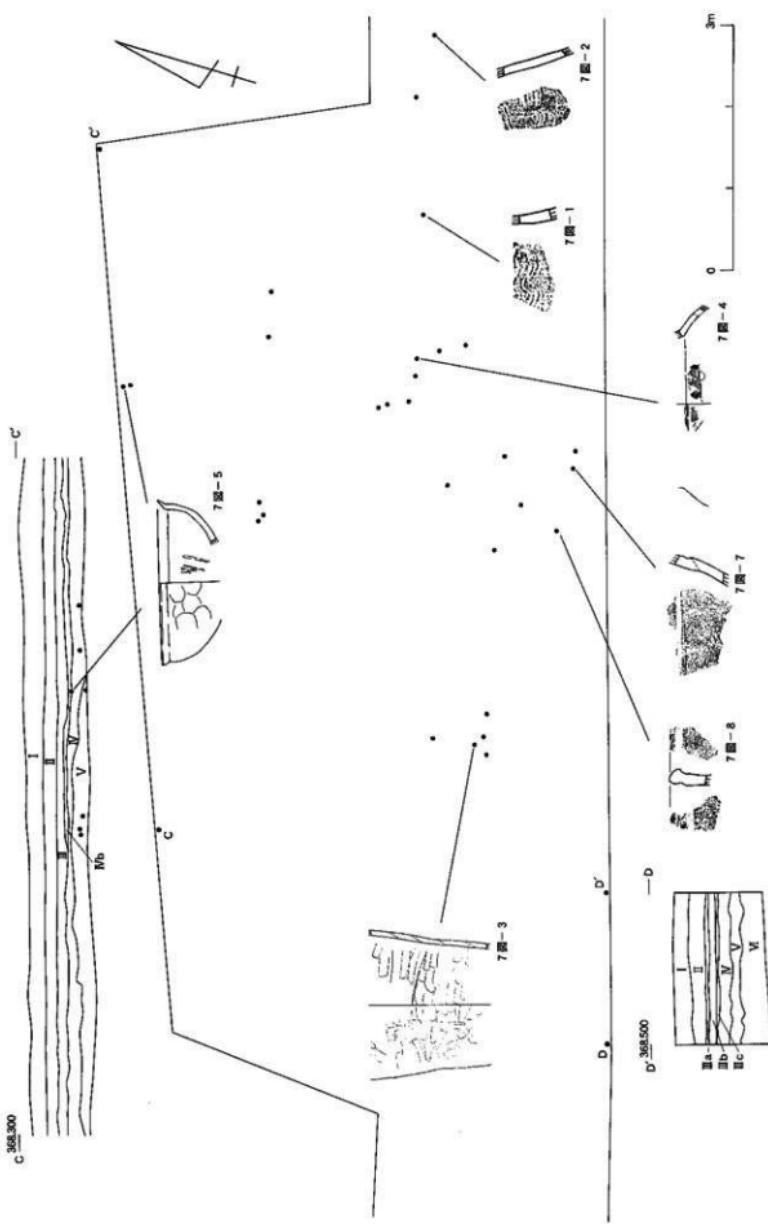
藤井平では南側を中心古墳時代後期の資料が確認されており、前後する時代とは土地利用に違いを見せてい



第4図 調査区西部遺物出土状況 (1/60)

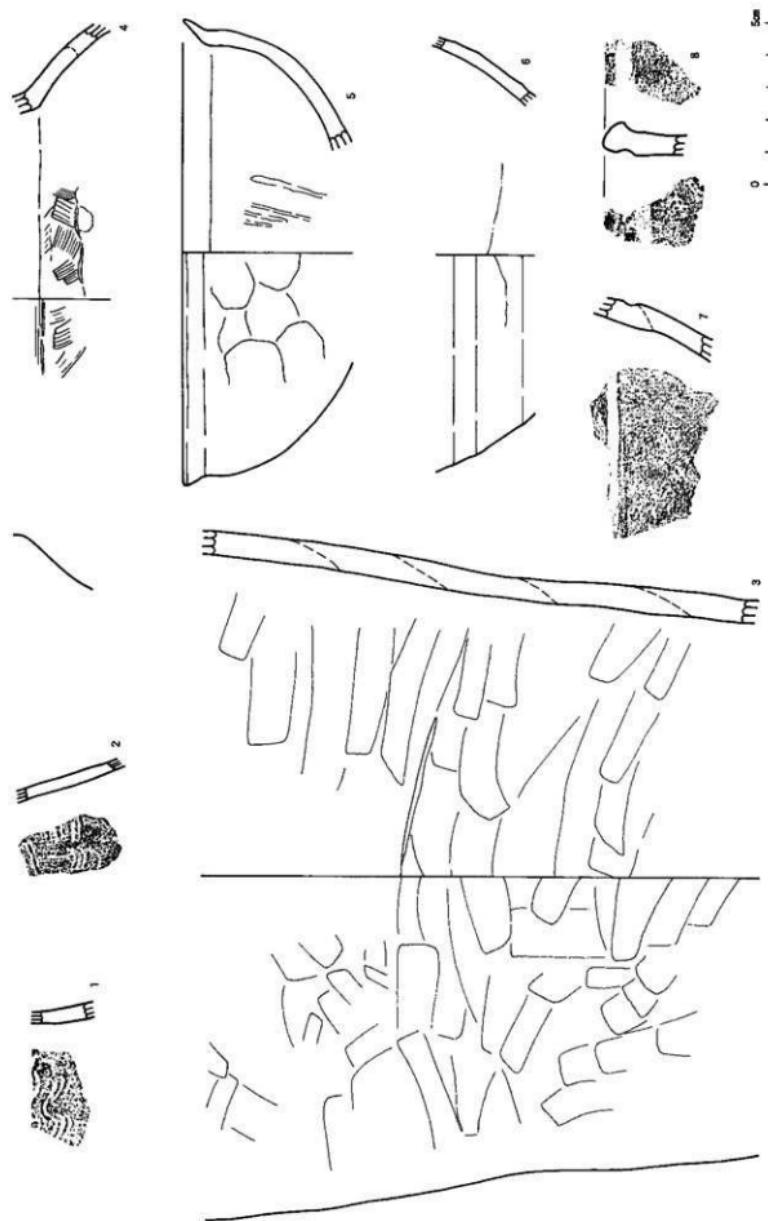


第5図 調査区東部遺物出土状況 (1/60)



第6圖 考查區中央部出土狀況 ( $S=1/60$ )

第7圖 出土遺物 (S=2/3)



#### 第4節 平安時代の遺物（第7図）

今回の調査で特に出土量が多い時代である。図示したのは6である。灰釉陶器の碗の体部である。胎土に白色粒子などが目立つ。

藤井平における平安時代の生活域の範囲を示す資料といえる。

### ま と め

今回の調査は埋蔵文化財保護行政の本来の目的である、遺跡の現地保存が達成されたものといえる。これはひとえに地権者や開発業者の理解と協力により成立するといえる。多くの開発予定地に対して保存処置をとることができたため、発掘面積は約400m<sup>2</sup>と狭小であったが、縄文時代晚期や弥生時代後期をはじめとする遺物が検出され、下横屋遺跡での先人たちの土地利用の変遷を考えるうえ

で貴重な資料をもたらしたといえる。下横屋遺跡には今年度までに合計4回の調査が実施され、広範囲に広がる遺跡の内容が蓄積されつつある。

本報告書は、限られた時間の中で作成したものであり、出土遺構・遺物を資料化したに過ぎないが、今後の調査・研究に活用されれば幸いである。

第1表 周辺の遺跡地名表

No.	遺跡名	発行年	報告書名	時代	備考	No.	遺跡名	発行年	報告書名	時代	備考
1	下横屋遺跡IV	2003	下横屋遺跡IV	縄・弥・古・平		16	宮ノ前遺跡	1992	宮ノ前遺跡	縄・弥・奈・平	
2	下横屋遺跡III	2003	下横屋遺跡III	弥・平・近		17	宮ノ前第2遺跡	1993	宮ノ前第2遺跡	奈・平・中	
3	下横屋第2遺跡	2001	下横屋第2遺跡	弥・奈・平		18	宮ノ前第3遺跡	1998	宮ノ前第3遺跡	奈・平	
4	下横屋遺跡	1998	下横屋遺跡	弥・平		19	宮ノ前第4遺跡	1995	宮ノ前第4遺跡	奈・平	
5	北下条遺跡	1991	北下条遺跡	弥・古・奈・平		20	宮ノ前第5遺跡	1997	宮ノ前第5遺跡	縄・奈・平	
6	札把塙遺跡	1996	札把塙遺跡	古		21	中田小学校遺跡	1985	中田小学校遺跡	縄・弥・奈・平	
7	山影遺跡	1997	山影遺跡	縄		22	金山遺跡	1966	金山遺跡	中・近	
8	上横屋遺跡	1999	上横屋遺跡	弥・古・奈・平		23	前田遺跡	1988	前田遺跡	平	
9	後田第2遺跡	1996	後田第2遺跡	縄・弥・古・平		24	立石遺跡	1994	立石遺跡	弥・古・平	
10	後田堂ノ前遺跡	1997	後田堂ノ前遺跡	弥・平		25	新府城跡	1988 ～ 2000	新府城跡	中	国指定史跡
11	坂井堂ノ前	1998	坂井堂ノ前	弥・古・奈		26	坂井遺跡	1998	坂井遺跡	縄・古・平	
12	三宮寺遺跡	1998	三宮寺遺跡	縄・平		27	坂井南遺跡	1997	坂井南遺跡	弥・古・平・中	
13	火閉塙古墳		火閉塙古墳	古		28	新田遺跡	1996	新田遺跡	縄・弥・平	
14	後田遺跡	1989	後田遺跡	縄・古・奈・平		29	飯米場遺跡	2002	飯米場遺跡	縄・古	
15	堂の前遺跡	1997	堂の前遺跡	弥・平							

第2表 調査区内土層説明

層位No.	記	明
I	客土	
II	灰黄色土層 床土	
III a	明赤黃褐色土層 鉄分をやや多く含む。径3～5mm L.B少。	
III b	明黃褐色土層	
IV	暗黒褐色土層 砂を少なく含む。	
V	黒色砂層	
VI	暗褐色砂層	

※Ⅲ～Ⅴは水田にするために入れた、客土の可能性が高い。

※Ⅲ bとIV層の剥離面から遺物が出土し、IV層の上部まで遺物はでなくなる。

図版 1



調査区中央部南壁土層堆積状況



調査区中央部遺物出土状況



調査区西部遺物出土状況



調査区中央部出土状況



調査状況



調査区中央部南壁土層堆積状況

## 報告書抄録

ふりがな	しもよこやいせきIV							
書名	下横屋遺跡IV							
副書名	藤井町南下条字水無421番地地点 宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書							
編著者名	間間俊明							
編集機関	韮崎市遺跡調査会							
発行機関	韮崎市遺跡調査会							
住所	〒407-8501 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号							
発行年月日	2003(平成15)年10月22日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号						
しもよこや いせき	にらさきしふじい まちみなみげじよ うあざみずなし	19207	F42	35°43'05"	138°27'07"	2003年8月 1日 ~ 13日	400m <sup>2</sup>	道路建設
下横屋遺跡	韮崎市藤井町南下 条字水無							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物			特記事項		
下横屋遺跡	集落跡	縄文時代	晩期(木I式)					
		弥生時代	後期(櫛描波文)					
		古墳時代	後期					
		平安時代	坏・甕・灰釉陶器碗					

## 下横屋遺跡IV

—藤井町南下条字水無421番地地点  
宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書—

平成15年10月22日 発行

発行 韮崎市遺跡調査会

〒407-8501

山梨県韮崎市水神1-3-1  
TEL0551-22-1111 (内250)

印刷 ほおづき書籍株式会社

長野県長野市柳原2133-5

